

# アグスティーン ムワンガ展 6/25まで



アグスティーンは、1962年、ダルエスサラームで生まれたマコンデ族で、マコンデ彫刻の代表作家。15歳のとき半抽象彫刻の代表作家、故ダスタニのもとで 彫刻を始め、現在ダスタニの流れるような曲線を受けつぎ、半抽象彫刻を多く制作。生命の源「母」として乳房の女性をテーマにした作品や、彼らの主食である「とうもろこし」や「バナナ」の精を表現して豊作を祈願し、貴重な「水」を水瓶の妖精として表現した作品などが展示されている

## ミュージアムショップ



マコンデ彫刻とティンガティンガ派の絵画、またトンゴ玉やミニマコンデ彫刻で加工されたアクセサリーなどが並び、



## マコンデ美術館

伊勢市二見町松下1799-2  
TEL 0596-42-1192

9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 火曜  
(祝日の場合は翌日に振替)  
(6月と12月は第2月曜~  
金曜、臨時休館)

入館料 一般.....1,000円  
高校生.....800円  
小・中学生.....600円  
幼児.....無料

### Q マコンデ彫刻に 出会ったきっかけは？

A 30年ほど前、名古屋の東  
南アジアや各国の民芸品が  
並ぶ民芸品店で、一段と輝いた黒  
い彫刻が買いました。そのとき、  
一目惚れで購入した記念の作品が  
「チヨースケ」です。無精ひげを  
生やした長い顔がどこかとほけ

## マコンデ美術館



## 館長

てユーモラスなので、いかりや長  
介にちなんで名付けました。ほか  
に狩りをする男、斧を持った男、  
子どもを背負う女、太い木を抱  
える男など、いずれも生命感の強  
い作品で、それがマコンデ彫刻だ  
ったのです。

### Q この30年でマコンデ彫刻に 変化はありますか？

A 最初の作品には、素朴な  
ものが多かったですが、お  
土産に人気なので量産のものが  
売られるようになってからは、時  
間をかけていないものが増えてき  
ました。以前は農  
作業の合間に彫刻  
をしていただけで、  
今では彫刻で生活で  
きる人もいます。

### Q 美術館を開いたのは いつですか？

A 平成9年9月に知人を介  
して、この場所を知りまし  
た。住んでいた名古屋に近く、観  
光地で見えが目の前、いくつかの候  
補地を見て一番気に入ったのがこ  
こでした。50歳の境に、好きなこ  
とをして生きていこうと決めてい  
たので、それまでに集めてきたマ  
コンデ彫刻を知ってもらいたい  
と、美術館を建てたのです。日本  
で手に入れるには数が少なかった  
ので、現地へ直接購入に行き、当  
時で作品は2000点ほどとし  
て、

### Q マコンデ彫刻 の魅力は？

A 黒檀の木の利用し  
て、枝や根の太い部分など  
そこからイメージして作りあげ  
る作品は、同じものが二つとして  
ありません。たとえば足が変な方  
向を向いているものもありません  
が、木からアイデアを出している  
ところが偶然にもインパクトが  
あり、おもしろいものに仕上がっ  
ています。それに表情が豊かで、  
彼らの彫った作品は生き生きとし  
ています。この彫刻を見ている  
と、元気づけられる気がします。



## 巻頭特集 ● 黒い輝きの美しい彫刻に出会う

# マコンデ 美術館

伊勢湾のどかな池の浦を見下ろす高台の美術館には、ちょっと変わった  
アフリカの民芸品が展示されている。タンザニアとモザンビーク国境に  
またがる地方に住むマコンデ人が始めたと言われるマコンデ彫刻。  
その彫刻には、アフリカの大地と自然や精霊たち、  
また人々の喜びや悲しみが表現されている。



## ウジャマ

仲間・家族愛を意味するウジャマはよく彫られるモチーフ。家族であったり、もう少し大きな共同体が表現される



## シェタニ彫刻

動物として考えられない生物、あるいは精霊をシェタニと呼ぶ。シェタニは気まぐれに人を助けたり、困らせたりする伝説上の妖精で、自由なイメージで作品に取り入れ、大胆に表現している

アフリカのバフォーがみなぎる  
2500点もの所蔵品がずらり  
タンザニアの代表的な芸術品の一  
つに、黒檀を使ったマコンデ彫刻が  
ある。日本では仏壇や位牌の素材に  
使用する黒檀は、表面は普通の木で  
あるが、削って磨くと、真つ黒な木  
肌が姿をあらわす。堅く重量感があ  
り、彫るのにはかなり手間がかかる  
ようだ。マコンデ彫刻はその黒檀の  
自然な形を利用した創造力豊かな  
もので、力強い中にも独特の美しさ  
を誇る。その歴史は300年くらい  
前まで遡る。

もともとは祭りなどで使用する  
マスクを彫った儀式用であったが、  
現在は芸術品かつ土産物になってい  
る。そのモチーフは、人が幾重にも  
折り重なり合ったウジャマ、精霊  
(シェタニ)、人物、動物などがあ  
り、アフリカの大地が創り出した生  
命感や躍動感を感じることができ、  
このマコンデ彫刻の魅力にとりつ  
かれた水野恒男さんが、二見町に美  
術館を開いて20年が過ぎた。収蔵す  
る作品は2500点ほど、企画展や  
展示替えも意欲的に行っている。